

(別紙4)

評価結果報告書

事業所番号	2970102618
法人名	メデカル、ケア・サービス (株)
事業所名	愛の家グループホーム大和西大寺
訪問調査日	平成 20 年 10 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 26 日
評価機関名	特定非営利活動法人カロア

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけています。
- 「取り組みを期待したい内容」欄は、「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

平成 20 年 11 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	2970102618		
法人名	メデカル、ケア・サービス (株)		
事業所名	愛の家グループホーム大和西大寺		
所在地	奈良県 奈良市菅原町184-1 (電話) 0742-52-6530		

評価機関名	特定非営利活動法人カロア		
所在地	大阪市大阪市天王寺区堀越町1番1号四天王寺堀越ビル		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年11月26日

【情報提供票より】 (20 年 10 月 13 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13 人	非常勤 2 人 常勤換算 5.71 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 F 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	77,000 円	その他の経費(月額)	52,500 円	
敷 金	有 (円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有 (200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○ 有 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10 月 13 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	5	要介護 2	7		
要介護 3	2	要介護 4	3		
要介護 5	1	要支援 2	0		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松下会 白庭病院 西部病院 往診 : 阿部クリニック				
---------	----------------------------	--	--	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大和西大寺駅より徒歩10分。新興住宅地で愛の家グループホームが最初に建てられ地域での密着度が高く入居されている多くは地域の方。2階建の施設は居室、共同空間のスペースが広く入居者の方もゆったりと暮らされており、職員も一人ひとりの方に寄り添った介護を中心という方針の元支援されている。玄関はオープンでそれが当たり前前に家庭での生活の延長の雰囲気の中で暮らされ、室内、居室とも安全面の確保も十分になされている。理念に掲げられている地域の中で当たり前の暮らしを継続出来る様に地域の人々との交流を深める努力をされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価で明かになった課題は職員間で話し合い、常に改善に向けて努力されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善が必要な部分も解釈されており、それに対しての取り組みも職員間で検討し合い日々努力されている。又出来ている評価に対しても維持して更なる質の向上を目指している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎に開催されており、自己、外部評価で上げられた課題、施設の現状などを報告。それらに対して出された意見、要望は職員間で話し合い改善に向けての努力がなされ常にサービスの質の向上に努められている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情ポスト、苦情受付相談など担当者を決め、ご家族の面会時などには相談、苦情を気軽に言ってもらえるように働きかけている。又入居者の方、ご家族さんよりの相談、苦情は敏速に対応し改善に努められている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩、買い物等外出時、地域の方との触れ合う機会があり声を掛けてくれたり、入居者の方の友人が遊びに来てくれたりとの交流がある。又、小、中学生の体験実習の受け入れ、ホーム主催の夏祭りには大勢の方が参加して下さるなど、こうした交流を深める事により災害時にも地域との連携が取れるように日々努力されている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の、一人ひとりが地域の中で人としての尊厳を大切にして暮らせる支援がなされている。	○	入居者の方を中心とした暮らしをホームの中で、又地域の中で人との関わりを大事に育てていく取り組みに今後ますますの期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に職員が常に意識して働き、理念に沿った支援がなされており、サービスの質の向上に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム主催の夏祭りには地域の方80名位の大勢の方が参加して下さったり、地域の行事にも積極的に参加されるなど交流を持たれている。入居者の方も地域の方が多く友人などの訪問もみられる。今後地域の、清掃、神社のお祭に何らかの貢献させていただこうと検討されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員、評価の目的を理解し、取り上げられた課題は職員間で話し合い改善に向けて日々努力されている。		

(結果)

外部評価	自己評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催されており、ホームの現状、取り組み、外部評価の課題など報告し、ホームへの理解を深めて頂き、意見、要望は職員間で話し合いサービスの向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務手続き等で、TEL・FAXで対応されていることが殆どであり行き来されていない。	○	運営推進会議のみならず、市との関連を深めて行く上にもこちらから出向いて行って、サービスの質の向上につなげていきたいという意気込みが見られる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者の方の日常生活ぶりをホームメールを作成し写真や文面で紹介、報告されている。金銭管理も出納長に確認印を頂くなど個々に会わせた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け付けポスト、相談担当者を決め、面会時には必ず声を掛け、苦情、不満などを聞きとり、どんな小さなことでも職員間で話し合い入居者の方、ご家族の希望に敏速に対応できるように心がけている。	○	今まで家族会を実施されたことが無かったが、今後半年に一度の割合で、ご家族さん同士の意見交換の場を持つ取り組みの計画があり、11月に第1回が開催される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応することが重要と考えており、開所当時は離職などでやむを得ない場合があったが、引継ぎの面などで努力され現在は落ちつかれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部から講師の先生に来て頂いたり、リーダーが研修を受け、もって帰って全職員に伝達されている。新人研修に対してはチェックリストなどで進行度を観察、不十分な場合その項目を再度トレーニングするなどの取り組みをされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のホームとは交流を深めているようですが、地域での交流会や連絡会などが、まだ新しい地域だけに難しいようです。	○	同系列ホームだけでなく地域の同業者との相互訪問活動も中心となって試みてはいかがでしょうか。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の方が安心して入居して頂ける様に随時ご家族と一緒に、見学を通して馴染んでいただけるように努められている。その成果でか地域の入居者の方が多く友人がよく訪ねて来て下さったりされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中でほぼ自立で生活されている方から、家事のやり方を学んだり、家庭菜園なども協力し楽しまれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、常に本人の意向や希望を把握し、職員間で話し合えるように努力している。時には家族さんに相談する事もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の方、ご家族と話し合い意向、願いを反映し、自分らしく生活できる個別の介護計画を作成しご家族の同意を得られてる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別経過記録を通じて期間に応じて、入居者の方、ご家族と話し合い見直しされている。又、随時変化のあった時はその都度見直されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支障のない限り通院、又、ご家族との関わりを一番大切に考えているので自宅への送迎など、外出支援はいつでも対応できるように努めてられる。		

外部 評価	自己 評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1度の割合で往診、訪問看護が来てくれますが、今までのかかりつけ医を大切にしておられ、本人家族が望む医療機関での受診など複数の医療機関と関係を持たれている。協力病院の確保がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療面で十分行きとどかない部分があり、ターミナル期に入ると本人、ご家族の同意の上病院に入院されるケースが多い。それまでに主治医、看護師、本人、ご家族、職員間で今後の対応について方針を共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	調査中職員さんの入居者の方への対応、声掛けなど柔軟でプライバシーを損なうような対応は見受けられませんでした。	○	トイレで排泄後、大便が出た時、出たよと職員に聞こえるように伝えてくれるとの事ですが、ホーム意外の方が聞かれた時の配慮が必要ではないでしょうか。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、入居者の方の状態や思いを汲み取りそれぞれのペースで自由に過ごされている。お天気も良かったので1フロアの7名の方が職員に付き添われ散歩に出掛けられたが皆さん生き生きとされていた。		

外部 評価	自己 評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をとり声掛け、さりげないサポートも見られ楽しく食事できるような配慮がなされている。時には一人ひとりの好みを聞き希望によりお鍋、お好み焼きなど入居者の方と買出し、準備、調理と楽しんで食事できる取り組みもされている。又外食に行く事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調に変化のない限り、定期に又は希望されれば入っていただく事もある。ドクターストップの方も許可ができればいつでも入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したり、食事の配膳、下膳、片付けなど日常的に行われている。又、趣味を活かした編物、家庭菜園などその方、その方に合わせた支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	調査中、7名の方が職員に付き添われ散歩、買い物に出掛けられた。外出のため服を選んだり、帽子をどうしようかとか、とても楽しみにされている様子を伺う事が出来た。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアの出入り口、玄関はオーとロックになっているが、日中玄関には鍵はかけられずごく当たり前の感覚で生活されている。居室も全て鍵はかけられていない。		

外部評価	自己評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いの元、夜間、昼間の設定で訓練されている。マニュアルも作られている。(本部からは定期的に備蓄が送ってきてくれるなどの対応がなされている。)地域で行われる火災、災害についての集会には参加されるなど協力を得られよう交流されている	○	1フロア、2フロア共にですが、特に2フロアの避難誘導など、日常的に会話の中に取り入れるなどの取り組みなども検討されてはいかがでしょうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本部の管理栄養士が作成した献立表が送られ厨房で調理している。食事摂取状況などは毎日の記録を取り職員が情報を共有されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には日差しが入り明るく、食堂には食食用テーブル、居間にはテレビ、ソファなど使い良く配慮されており入居者の方の手作りの作品が飾られている。そしてさりげなく食食用テーブルに散歩の途中で積んできた草花が生けられ家庭的な雰囲気が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族本人と話し合い、家で過ごされていた状態に近い居室選びや、使い慣れた馴染みのある家具などで居心地よく暮らされている。仏壇を持って来ての方がおられ、毎日食事の時のご飯をお供えされている。		